

高校に入学する前、中学校三年生ぐらいのときに初めてこの行事について知りました。もと二高のOB/OGの方である現役東大生や大学院生と話をすることができ、そしてなにより東京大学に見学ができるということは、私に関心や興奮をそそらせる内容でした。高校に進学する上で動機としての位置づけでもあったこれらの行事に参加することが可能となったことに、改めて期待を寄せずにはられませんでした。

今回の訪問は二日間に及びました。短時間ながらも非常に内容が濃密で充実していて、訪問先での説明では「絶対に話は聞き逃すまい」と、思うくらい意識を集中していました。特に中学校時代から楽しみに待ち望んでいたディレクトフォースと東京大学にかかわるOB・OGの懇談会は心に残りました。

最初に言うておくと、ディレクトフォースとはもともと日本や他の世界活躍なされていた人が笹川平和財団や日本財団などの組織に集まり、私たちのために今回共催したものです。そこには、幅広い年代の方たちが集結していました。そのような方々に、話を聞くことができるということにとてもうれしくなりました。ディレクトフォースの方々の知識や世界の情勢にまつわる意見を聞くうちに、自分の経験が深まっていくように感じられました。

基調講演をしてくださった笹川平和財団の理事長である田中伸男氏の講演は、とても貴重な体験として感銘を受けました。田中さんは、前国際エネルギー機関(通称IEA)の事務局長を務めていらっしゃる方で、現在のエネルギー問題に関わる地球環境問題について、スクリーンを用いて丁寧に説明してくださいました。中でも「国際機関は、上手に使わないといけない」ということが要点であったように思いました。これは直接かかわりのない国際であっても、官民が連帯して社会問題に取り組むために、一体となって確立していかなければならないという内容にあたります。こうした説明を通じて私たちは社会の一員であり、次世代を担う義務があるのだと実感することができました。

また、基調講演のほかにグループセッションがありました。それによって話を伺うことになった笹川平和財団の中村修子氏の話も印象的でした。中村さんは女性の研究者として今は海洋について調査をなさっているそうです。しかし、これまで自分の物差しがうまく定まらなかった、つまり自分が納得できるような仕事が見つからなかったそうです。それに最初は研究職に就くとは思ってもいかなかったらしいです。そんな中村さんから私たちに向けて次のような言葉を残してくれました。「高校生のときにしかできない経験をしてください。自分の好きなことが何であるのかを追求することもしてください。勉強することもちろん必要ですが、必要に迫られたときに自分で取り組めるだけの基礎学力なのだと思います。」

私は中村さんのように理系分野に関連した研究をしたいと思っていました。この言葉を聞いて高校のときにしかできない経験やその契機を失いたくないという気持ちが芽生えました。

OB/OGの懇談会では、三人の先輩方から高校での勉強の仕方や、日々の過ごし方のアドバイスについて話を聞くことができました。どの方も大学に入る為に人一倍陰の努力をしていたということに驚き、自分の甘さや愚かさを痛感しました。そしてなにより、東大というもの良く知っていない高校一年生の私たちに向けて、先輩方はわかりやすく説明してくださいました。余談ですが、先輩の話し方は所々に緩急があり、要点を捉えていて

、上手に説明ができない私とは、はっきり違っていました。トップという立場を初めて見せつけられた気がしたような、そういう時間だったと思います。

現在、農学部にいる先輩にお話を伺ったときに将来の方向性を決めておいた方がいいという助言をいただきました。受験勉強でも目標を決めておくことで身が入り、集中することができるそうです。これは高校三年生のときに急に身に付くものではなくて、やはり日ごろの積み重ねが影響してくるように思われました。また、新聞を熟読していたことは社会的に大いに役立ったと聞きました。並行して、大学受験でもセンター試験で地理科目の七割獲得にもつながったのだそうです。私は、今まで新聞などのメディアの大切さにつ

いて、あまりよく考えたことがありませんでした。日常でもテレビのニュースを見るものがほとんどありません。しかしながら、そうではなくて世の中に貢献するために世界の出来事を見聞しておくことが必要だと知ることができました。他には、大学生活についていろいろな趣味の人が集うということを教えてくださいました。大学になるとチームワークが欠かせないのだと思います。もっと広い観点から自分を見つめ直したいと思うきっかけを作ることができました。私は理系分野の中でも小さいときから宇宙航空に興味を持っていました。先輩の話からすると、理系を志願して科学的な好奇心を持たないことはとてももったいないことだと言われました。授業で学んだ勉強に加えて、自分の興味や関心を広げていくことは重要なのだと思いました。

一橋大学の先輩にも話を伺う機会があったとき、とりわけ感動したことが「トップを根ざすなら裏をかくような勉強をする」というものです。私がトップの大学を目指すことになるかは分かりませんが、裏をかく勉強とは先輩ならではの方法かもしれません。ですが、自分が目指す大学によって勉強方法が変化することは確かだと思います。これから自分が最終的に決定することになる大学に合わせて、最善の方法で取り組むことを心がけていきたいと思いました。さらに、合格は単なる手段

であるということについて先輩方から教わりました。自分が何に興味があるのかをしっかりと自覚し、偏差値だけで受ける大学を選択してはいけないということをおっしゃっていました。どこの大学に進学すればよいかを考えるために、参考になった話でした。

私は、今回の「東大見学会・企業大学訪問」を通して、第一に狭い視野で物事をとらえていたということを感じました。そして第二に、自分が好きな分野をより深めていきたいと思うようになりました。前者の理由としては、研究の発端でも同じことが言えると思いますが、やはり世界を知らないで何も語ることはできないからです。大学からは、今まで以上に外国の人々と共同で作業することは格段と増えると知ることができました。英語力をつけることはもちろん必須として、いろいろな人たちと積極的に活動がしたいと思いました。具体的には、相手方の歴史や文化などの違ったものに遭遇したときに、柔軟な態度

で接することです。これらは研究者問わず様々な分野で求められることになります。大変な作業であると考えられるので、今のうちから少しずつ習得していきたいです。後者の理由は、自分が理科学科を好きなのにもかかわらず、一般的に知られている事実が意外とよくわからなかったことを実感したからです。理系の原動力は、基本的に何でも知りたい・見たい・確かめたいという思いからすべては始まるのだと思っています。今、この現在にとどまることなく自分にとって楽しいことを追求していきたいと考えました。

これから始まる仕事の面白さは、新しい自分に進化することができるという点です。そして何より、今までになかった経験やものの見方が可能になります。自分が歩むことになる理系の世界をいろいろな人達に理解してもらうために、今、しなければならぬことを高校生の時点から取り組んでいきたいと思いました。